

## 第6週金曜日

### 第5歌頌 (預言者イサイヤの歌句、イサイヤ26:9-19)

神よ、我が神<sup>o</sup>は夜中より爾を慕ふ、蓋爾の誠は地に在りて光なり。地に居る者は義を学べ。不虔の者は恩を承くれども義を学ばず、直き者の地に居りて猶不義を行ひ、主の威厳を顧みざらん。

十四段に、

主よ、爾の手は高く挙げたり、然れども彼等は之を見ざりき、爾の民を悪む者は之を見て愧ぢん、火は爾の敵を嚙まん。主我が神よ、我等に平安を與へ給へ、蓋凡の事は爾我等に報いたり。主我が神よ、我等を獲よ、主よ、我等は爾の外に他の者を識らず、爾の名を唱ふ。彼等死して復活きず、滅びて復起きざらん。蓋爾は彼等を糺して之を滅し、彼等の記念を全く失はしめたり。主よ、彼等に艱難を加へ、地の驕れる者に艱難を加へよ。

八段に、

イルモス 1調 「主よ、爾の誠の光を我に耀かし給へ」 4調

主よ、患難の時我等爾を尋ね、爾の懲罰の我等に及べる時靜に禱を為せり。

主よ、爾は十字架に寝りて、死を寝に變じ給へり。蓋爾は、主宰よ、呼べり、友ラザリは寝ねたり、然れども我等今往きて彼を醒まさん。

妊める婦の産に臨みて苦しみ、其痛に由りて號ぶが如く、主よ、我等は爾の前に是くの如くなりき。

仁慈なるハリストスよ、爾は諸預言者の預言に應ひて、預言者を殺す城邑に來れり、甘じて殺されて、誘惑に因りて殺されし我を救はん爲なり。

主よ、我等爾を畏るるに因りて妊みて苦勞し、爾の救の神を生みて、之を地に施せり。

節制と祈禱とを以て不順なる肉體を言に従はしめし修道士及び俗人よ、小驢に乗りて苦を受けん爲に來るハリストスを迎へよ。

我等主を頼みて亡びず、唯地上に居りて地を頼む者は亡びん。

生神女讚詞、至淨なる者よ、爾の慈憐を注ぐを以て罪の燄に因りて枯れたる吾が山を濕し給へ。光の門よ、吾が智慧の滅えたる燈を燃し給へ。

四段に、

イルモス 「光を施すハリストス神」 8調。

爾の死者は復活し、墓に在る者は起き、地に在る者は樂しまん。

ハリストスよ、爾はワィファニヤに至らんと欲せし時、爾の門徒の二人を爾の爲に小驢、人の誰も未だ乗らざりし者を牽き來らん爲に遣し給へり、蓋救世主よ、爾の外に誰も無知なる異邦民を服せしめざりき。

蓋爾よりする露は彼等の為に醫治なり、地は其死者を出さん。

多くのイウデヤ人はイェルサリムよりワィファニヤに集まりて、今日ラザリの親族と共に哀しむ、然れども明日は彼が墓より出でたるを知りて、ハリストスを殺さんことを謀る。

光榮は父と子と聖神に歸す

三者讚詞、至聖なる三者、父、子、及び全功なる神、福たる神性、無原なる主、三耀の光、見ざる所なき權柄よ、爾の諸僕を護り給へ。

今も何時も世々にアミン

生神女讃詞、ハリストスよ、爾の母は爾が十字架に釘うたれて、爾の生活の脅より血と水との流るるを見て、母たる哀に刺されたり、爾を己の子と識ればなり。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

視よ、ハリストスはイェルサリムに來らん爲に己を備へたり。山及び野にある修士は皆來りて、全天下と偕に歡びて彼を迎へよ。

イルモス 「光を施すハリストス神、創造の始の淵の暗を退けし主よ、我が靈の晦冥を散らして、言よ、我に爾が誠の光を與へ給へ、我が夙に興きて爾を讃榮せん爲なり。

」

ひかりを施すハリストスかみ創造の始めの淵の  
 やみを退けし主よ我がたましいくらやみの暗闇を散らして  
 ことばよ、我に爾が誠の光を与えたまえ我がつとに  
 起きて爾を讃揚せんためなり

【小連禱】（斎調で）

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、  
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、  
 輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女幸・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と  
 を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリス  
 ストス神に委託せん、  
 司祭 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神<sup>°</sup>に獻ず、今も何時も世世に、

（詠）主憐めよ  
 （詠）主憐めよ  
 （詠）主爾に  
 （詠）「アミン」

### 第8歌頌（三少者の歌句、ダニイル3:57-88）

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。露と霜、氷と嚴寒は

**主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

八段に、

イルモス、「地と凡そ其上に在る者」。

**天の諸の鳥と、野獣と、一切の家畜は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

復活と生命とは此に在るに、女等は何ぞ痛く哭ける、衆人の恩主は來りて、其親しき友を活かして、彼の復活を以て衆の復活を預示さん。

**人の諸子と、イスラリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

修道士等よ、集まりて、今枝を執りて、靈智なる羔として、牧師長たるハリストスを迎へよ。主は甘じて來り給ふ、羔として屠られて、衆を狼の強暴より脱れしめん爲なり。

**主の司祭と、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

爾がワイスファギヤに往くに、仇たる地獄は爾の足の響を感じて、ラザリの足に觸れて云へり生命が若し爾を呼ばば、躊躇なくして出でよ、蓋我は速に吾が亡さるるを知れり。

**諸神と諸聖人の靈、諸義人と心の謙卑なる者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

(生神女讃詞) 童貞女よ、諸預言者の聖なる聲は爾を像りて、門と、山と、聖なる幕、又輝ける雲と傳ふ、是より幽暗と蔭とに坐する者の爲に日たる唯一の光を施す主は輝き出でたり。

イルモス「諸天使諸天よ」。

**アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

門徒の二人は遣されて、重任を負ふ驢を、雲に乗りて衆に歌はれ、萬世に讃め揚げらるる者の爲に牽き來る。

**主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。**

ワiffアニヤよ、ハリストスは門の側に在り、故に憂ふる勿れ、彼は爾の哀を喜に變じて、爾の養育せしラザリを墓より起して、世々にハリストスを歌ひて、讃め揚ぐるを得しめん。

**我等主なる父と子と聖神<sup>o</sup>とを崇め讃めん、**

(聖三讃詞) 唯一の神は三者なり、父は子の本質に入らず、子も聖神の位に變ぜず、三位各其本質を守りて、共に唯一の光、唯一の神なり、我世々に彼を讃榮す。

**今も何時も世々に、「アミン」。**

(生神女讃詞) 爾は獨無玷にして生み、獨婚姻に與らずして嬰兒に乳を哺ませ、獨母及び婢にして爾の造成主及び主宰を生み給ふ。母童貞女よ、我等爾を世々に歌ふ。

**我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。**

我等皆諸徳の梢及び見ゆる枝を持ちて、二性なるハリストス、小驢に乗り給ふ主、萬世に讃め揚げらるる者を受くる爲に己を備へん。

**我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世々に歌ひ讃めん。**

[イルモス] 諸天使諸天よ、光榮の寶座に坐し、神として絶えず讃榮せらるる主を崇め讃め、

彼を歌ひて、世世に讃め揚げよ。

我等主を讃め、崇め、伏し拝みて 世世に うたい 讃めん  
 諸天使 諸天よ、光栄の 宝座に 座し 神として  
 絶えず 讃栄せらるる 主を崇め 讃 め 彼を 歌いて  
 世世に 讃めあげよ

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が 靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句  
我が心は主を あが め 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ  
 附唱  
ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を  
 破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ 讃 む

第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、  
 →附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9歌頌

祝讃せらるる哉主、イスライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の角を其僕ダビドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、即  
我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、以て矜恤あわれみを我が先祖に施し、  
八段に、

イルモス「権能者は我に大なる事を成せり」。

其聖なる約すなわち即 我が祖アウラアムちかに矢ひたる誓を記念せん、

イイススよ、爾は預言へり、視よ、我等は聖なる城に上る、彼處に我實に兇殺者の手に由りて十字架に付されん、身にて殺されん爲なり。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼れなく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

獨不死なる主言よ、爾は己の友を死より取り上げんと欲して、身にて我等の爲に殺さるるに急ぐ、死すべき信者を不死の者と爲さん爲なり。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きてその道を備へん、

謙遜にして身にて小驢に乗り給ふハリストスに潔淨の枝を捧げて、彼に言はん、苦の爲に來りし救世主よ、爾は崇め讃めらる。

彼の民に、その救いは即ち諸罪の赦しにして、我が神の矜恤あわれみに因ることを知らしめん。

(生神女讃詞) 生神女、ハリストスの母よ、爾の産は畏るべし、故に我等萬族は世世に爾を熱切に讃揚し、敬みて讃榮す、「アミン」。

イルモス、「山に於て立法者に」。

此の矜恤あわれみに因りて、東旭あきひは上より我等に臨めり、

ハリストスは今門徒を遣して曰へり、小驢を解きて牽き來れ、我之に乗らん、異邦民を無知より解きて、子として之を父に服せしめん爲なり。

幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん爲なり。

主は來る、ワイファニヤよ、爾の門を開きて、信を以て主宰を受けよ。蓋彼はラザリを墓より復活せしめん爲に來る、獨全能者なればなり。

光榮は父と子と聖神に帰す

(聖三讃詞) 主よ、爾の一元の三光は輝ける光線にて我等の智慧を照して、我等を多種の迷より合一にする神成に轉ず。

今も何時も世々にアミン

(生神女讃詞) 萬有の王の宮たる生神童貞女よ、慶べ、爾に縁りて地に在る者の爲に天國及び諸天使と偕にする居處は開かれたり。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す

野に山に洞にある者よ、來りて、我等と偕に集まりて、枝を執りて王及び主宰を迎へん、蓋彼は我等の靈を救はん爲に來り給ふ。

【イルモス】 山に於て立法者に火及び棘の中に預象せられたる、我等信者の救を爲す永貞

童女の産を、黙さざる歌を以て崇め讃む。

やまに於いて 立法者に 火及び棘いばらの中に預象せられたる

われら 信者に救いをなす 永貞童女の産を

もた黙さざる歌をもって あがめほ讃む

常に福にして (6調)

小連禱